

グリスポンプ

- ・1時間に1回は必ずグリスアップ
- ・下部ニップルから溢れるまで
- ・補充は上から入れずにグリスガンで



有線リモコン

- ・圧送のオンオフ、3chの流量調整
- ・防水仕様ではないので注意



吸い込み口 ストレーナー

- ・異物によるバルブやプランジャーの破損を防止
- ・外して圧送は厳禁です

月次または現場搬入前推奨の点検事項

・オイル量点検 → 点検窓より目視確認

ギヤオイルなので基本的に減るオイルではありませんが、オイル室から出ているプリー部分シャフトやクランクのシャフトが出る部分にはパッキンを使用しています。

パッキンの劣化によりオイルが滲み出し、酷い場合は稼働する度にオイルが漏れていきます。明らかに減っている場合は上記部分の不具合が疑われますので、確認をしてから使用して下さい。

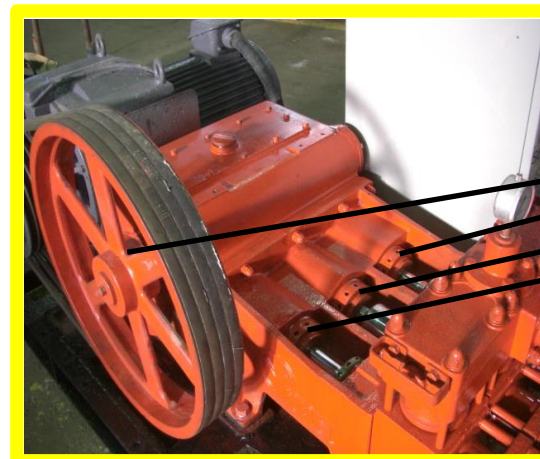
※現場から引き上げる際には、設置してあった場所にオイル跡がないか確認して貰えるとより確実です。



吊りフック 4ヶ所
フックのボルト自体はカバー
へ



カバー取り付けボルト 両サイド計8本
カバー本体にナットが溶接



漏れる場合は
ここから漏れます

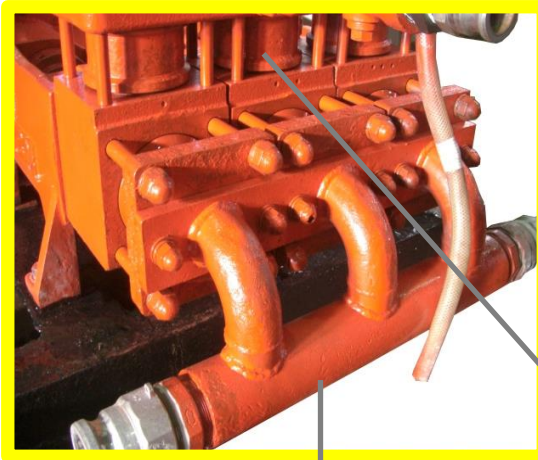
要注意

- SG圧送ポンプ本体の重量は1600kgです 確認を怠り落下した場合は非常に危険です
- ①吊り作業の前には必ずフック本体の損傷、カバーとの溶接部分に損傷がないか
 - ②個体により本数は変わりますが、最低8本のボルトで固定されていますので緩みがないか

以上は必ず吊り作業に入る前に確認をして下さい

トラブル例

バルブとバルブボックス



ストレーナー



バルブとバルブケー

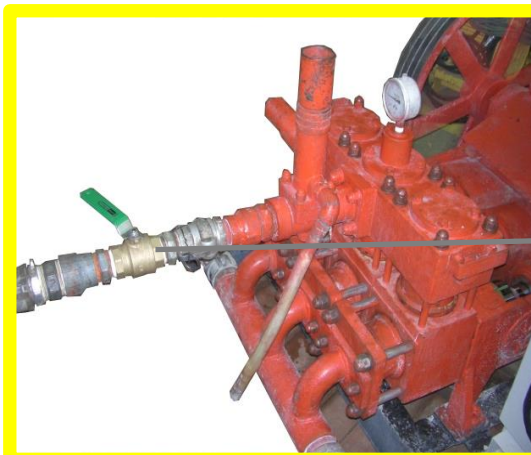
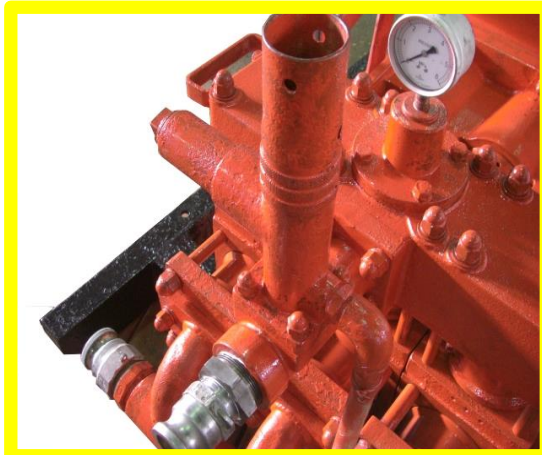


バルブシート

- ・液体が流れる→バルブシート下のスプリングが押されることによりバルブとバルブシートの上にすき間が生まれ液体が流れます。ピストン運動に伴い開閉を繰り返している部分なので開きっぱなし又は閉じたままでは流量が減少します。
- ・本体が稼働していて流量や圧力が突然大幅に落ちた場合は異物が挟まり開きっぱなしになっている可能性が高いです。

トラブル例

安全弁の作動



安全弁の作動確認方法

- ①ボールバルブを接続する
 - ②水を流す
 - ③バルブを徐々に閉め圧力を掛ける
 - ④圧力計の2MP付近指した所で弁が開放されればOKです
- ※ホースの劣化のより設定圧になる前に破裂する場合があります

ミルクを流している時に安全弁が作動した場合には内部にミルクが侵入してしまう為、固着する可能性があります。その為、一定の時間が経過した段階で作動するかどうかのチェックは必ずして下さい。